アタゴオルは猫の森

ますむら・ひろし

ATAGOUL is Cat's Forest

6



MFコミックス

フラッパーシリーズ

アタゴオルは猫の森 6 ますむら・ひろし

MEDIA FACTORY

ISBN4-8401-0912-5
9784840109123
C9979 ¥514E
1929979005146
定価：本体514円（税別）
雑誌52642-12
メディアファクトリー

音楽家なら誰もが憧れる檜舞台、
そこでの演奏を頼まれた唐あげ丸だが、
意気揚々と出向いた村を
待ち受けていたのは……
『THE BAND』。
アタゴオルに湧く温泉は難病に効く、
その秘密とは『ハカイノミナモト』。
遠く銀とざき海のホオズキ島から
ヒデヨシに幼稚園の園長の依頼が！
そんな無謀な話ってあるの!?
『ホオズキ』など8編に、
当時の思い出や近況報告なんかが
ごちゃ混ぜの作者による
個別解説『アタゴオル余波6』を
あわせてお届けします。



ますむら・ひろし

昭和27年生まれ
山形県出身。
昭和48年デビュー作「霧にむせぶ夜」が
「週刊少年ジャンプ」に掲載。
その後青林堂に入り
雑誌「ガロ」を舞台に活躍、独立後現在に至る。
平成9年には「アタゴオル玉手箱」で
日本漫画家協会賞大賞受賞。
宮沢賢治作品の漫画化にも意欲的に取り組み、
独自の感性で大胆に視覚化している。
中でも「銀河鉄道の夜」は
昭和60年、劇場アニメとして公開、
マンガファンだけでなく
宮沢賢治愛好家の間でも高い評価を得ている。

装画・ますむら・ひろし
装幀・多田和博+岡田ひとみ
フォーマットデザイン・フィールドワーク

ATAGOUL is Cat's Forest

アタゴオルは猫の森 6

ますむら・ひろし



アタゴオルは猫の森 6

ATAGOUL is Cat's Forest

第一話　象猫(ぞうねこ)




ハエ〜〜〜 気持ちイーーッ
ほんと ジワーーーンとして 眠くなってしまう
テンプラも ヒマそうだねえ
その点 オレは働き者だからなあ
働き者？


ありゃ
ぜんぜん売れてない
なに売ってんだ?
イエーーッ おみやげーーっ なのよ~~っ
温泉郷アタゴオルのおみやげーーっ
ド・
ド・
1つ記念に買っていくか
ワーイ おみやげ
いらっしゃいませ お客様
んっ


なんだよ コレ？
さあ？
見りゃあ判んべよ
鳥だよ ブク鳥
ブク鳥？
そうよ 満腹を呼ぶ ブク鳥ちゃん
これさえあれば 食いっぱぐれなし
1個たったの 7銅貨よっ
タダでも いらん
ヒデヨシ これ
おまえ 彫ったのか？
オレじゃ ないわよ
スミレ博士が 彫ったのさ


スミレ博士も
おまえも
同じだろ
違います
他猫です
やあテンプラ君
スミレの作品
気に入ったようじゃな
おまえねえ
木彫りって
そんなに
甘くないぞ
本当に売り物作りたいの
なら修業しなよ
修業?
ふははは
おまえが
木彫りの
修業だと
…つとまる訳が
ない



このスミレ
必ず
ガンバッて
みせまするぞ
どうか弟子に
させてくれいっ
それじゃあ
ワシがヨシと言うまで
ノミを研いでもらおうか
10分後
くっ
シュッ
シュッ
苦しい
修業とは
こんなに
苦しいのか
コン
コン
コン
カッ
ひっ



うまい
ギリギリっ
このやろ
なにすんだっ
ほほほ
弟子は
卒業じゃ
たった10分も
研いでられない
ようじゃ
木彫りは無理だ
とっとと帰れ
あ〜〜っ
働いたら
ノドがかわいたわ
なんか
飲ませてくれ
コラ
そこは
ダメだ
おっ


仕事道具部屋じゃな
大切な道具にイタズラするなよ
ギョッ
なんだコレ しぶいんじゃないの
それに さわるな あぶないぞっ
なにが あぶないのさ


おまえ なんとも ないのか
別に――っ
つー訳なのじゃよ
なんだか 凄い迫力 あるなあ ソレ
ねっねっ ホラホラ さわってみる?
どれ どれ
ん


うわ
おまえ
そんなの
さわって
平気なのか?
ぜんぜん
平気じゃよ
なんなの
ですか
この刃
なんでも彫師の
クマリパ
とかいう奴が
使っていたもので
そいつ以外の奴が
さわると ビリビリ
するらしいのじゃ
彫師
クマリパって
確か サンゴ森の
鼻岩に…
あっ
アレか
そ――かぁ

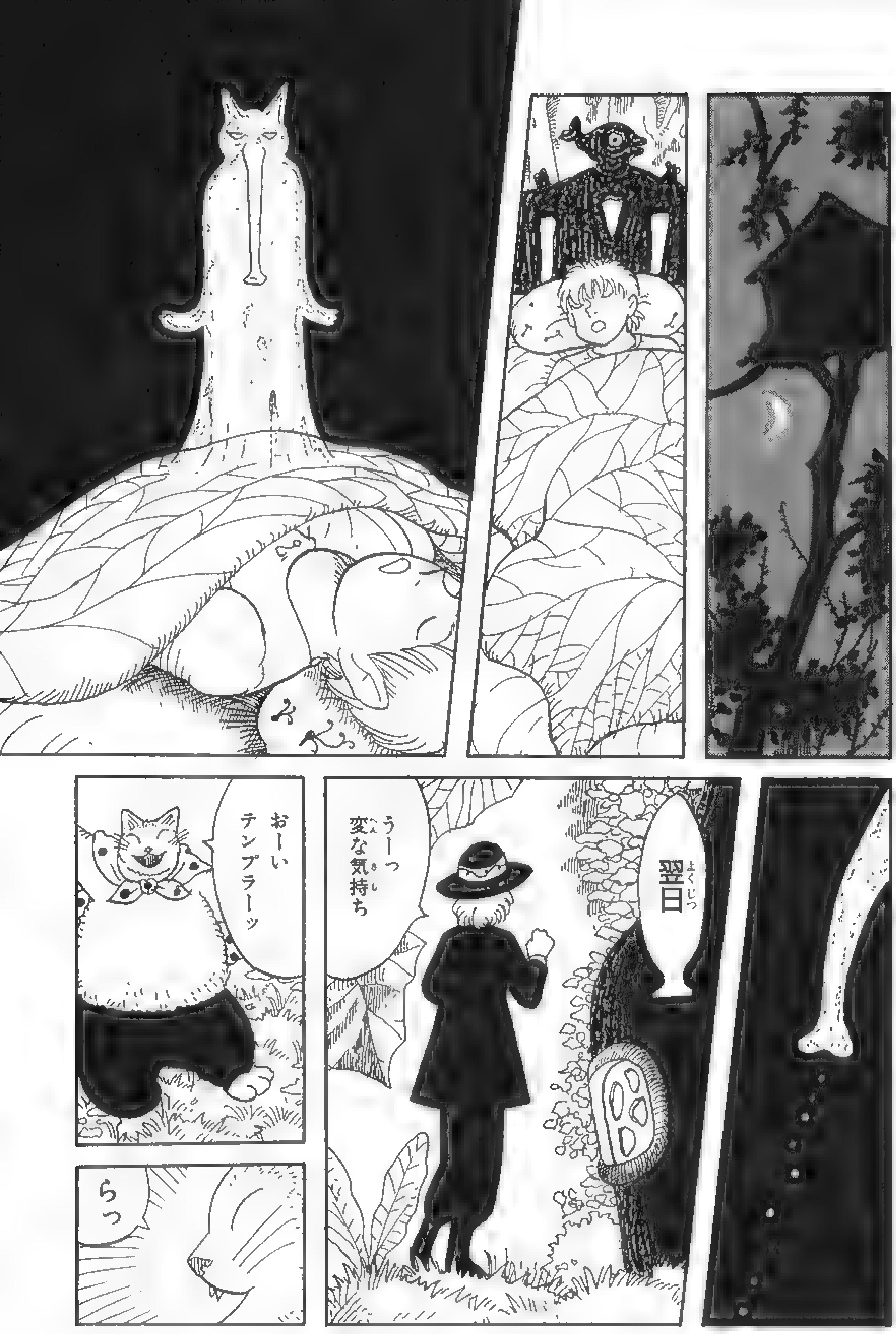

この象猫彫った奴なのかーっ
象猫!?
オレが名付けたのさ だって鼻が象みたいだぜい
しかしなんのためにこんなもの彫ったんでしょう
変な型ですねえ



オレ大好きなのよォ
だから趣味悪いって言ってんでしょ
ら
テマリかよォ
あれっ
なんだろう…気のせいか
ひえっ
鈍感だから今ごろしびれてきたんだな
うっ
にゃあ〜〜〜っ


カッ
カッ
あいつ
なにかに
取り憑かれた
みたいに
彫ってるぞ
あの像
完成してないんじゃないのか
えっ
カッ
ひえ——っ
体が勝手にっ
あれっ
あの印は
ら
シビレが止まったわ


ら
あ
鼻から
あの印は
乱回印といって
封印を解くと
いう意味なんだ
あれっ
あの光の型
南ノ象座だ


翌日
うーっ
変な気持ち
おーい
テンプラーッ
らっ

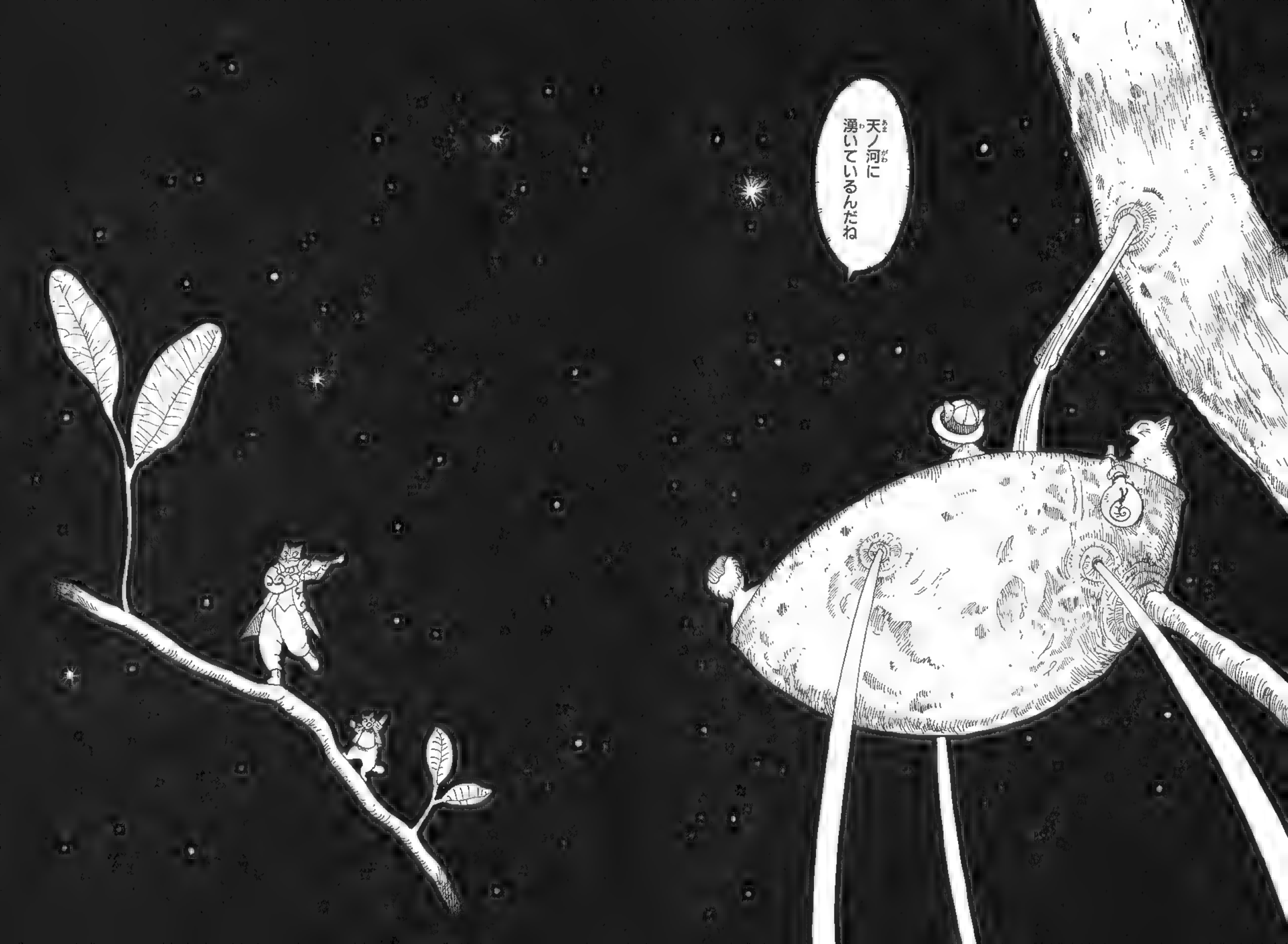

なんか鼻がさ…
わははは
テンプラ象さん
すんげえ変な気分だぞっ
ちょっとヒデヨシ
どうしてくれんのよこの鼻
象女だっ
キャーッ
踏みつぶされるう


んっ
ほがっ
やっとデ象君
くっそおーっ なんでこんなことになったんだあ
鼻岩の封印が解けてあの鼻から出た光を浴びたせいじゃないかなあ
くっすおくっ クマリパの野郎なんであんなもの彫ったんだあっ
うーっ怒りが餅のようにふくらんできたときはっ



やっぱり温泉だねえ
ザー
まったく……。
調べてみたんだけど
クマリパって男も温泉好きだったらしいぞ
へぇ
あれあんな所で
キヒエー
鼻ーーっ
ホホホ前から一度やってみたかったことなのよ


んっんっんっ
ズ
ズー
ッ
んめ～っ
うっ
!
やった 鼻が元にもどったぞ
!
なっなんだコレは!?
そうか
オレたちの温泉は


天ノ河に湧いているんだね


すげえ
底無しの星の海
ふう
あんまり沢山あって星の位置が判らないね
たぶんあの青いのが
銀楽星ってことは
どうやらオレたち南ノ象座の鼻のあたりに来ているぞ
おっ
流れた


言い伝えがあるんだ
「南ノ象座から流れ星がある」と
どこかで戦争があるんだ
あ
ずいぶん大きな戦いが…
でもよ
勇気ってのはな
戦争から逃げ出して


温泉行くことなのよー

第二話　THE BAND





プゲオ
らんららん
あ〜〜っ 春だなあ
プゴッ
水仙ラッパの音が聞こえるね
すごくヘタクソですね
誰だろ ププフフ
こんなにヘタな奴は？
プゲッ


プゲー!…
ビー…!!
プペー!…
らっ ドラネコ団
やーいっ そんな ヘタクソじゃ お金とれないぜ
でも なかなか いい曲です
誰の曲ですか
オレが 作ったのさ 『春のしっぽ』 というんだよ
ちゃーんと 譜面に書いて あるんだぜ
譜面なんかに 書かれる曲じゃ マダマダだな
なに言ってんだい 譜面も 読めないくせに


しっかし
その水仙ラッパ
いい音だな
モモラ岩の
とこにあるぜ
ラッパ
ラッパ
ラッパ
ちゃん
ほほほ
らん
らら
んっ


なにが書いてあるのかさーっぱり判らんけど
ビエェッ
こらっ うるさい
赤ん坊が寝てるんだ 静かにしろって書いてあるだろう
ビエッ
むっふっふ
あれっ ヒデヨシ
おまえ 字読めないはずなのに
おほほ
野性の勘だぜっ 感じるのさーっ
聞け赤ん坊
プゲゲッ
おほほ


赤ん坊起こしたぞーっ
ブビッ
もしもし
この辺にある粉雪亭というお店を探しているんですが
あの店つぶれたよ
えっつぶれたっ
それじゃ唐あげ丸さんは？
親父は借金抱えて逃げたぜ
ええ
逃げた!?
アンタも借金取りかい？
いや違います
唐あげ丸さんにお会いしたくて…


さーーっ
次行こう
次ーーっ
ちょっとーっ
もう3軒目ですよーっ
唐あげ丸さんの隠れ家に早く案内して下さい
んっ
ら
粉雪亭!?
初めまして
唐あげ丸さんですね
莫大な借金を作って逃げまわっているのにすばらしい演奏ですね


莫大な借金？
私 そんなもの アリマセンよ
えっ
莫大な借金を踏み倒して平気でいる奴なら
貴方のうしろにいるけどね
ほほほほっ
私 エゼベロイの星盤森のホリモチという者です
星盤森といえば鯛舞台のある森ですね
鯛舞台か
音楽家なら一度演奏してみたい所ですね
実は
唐あげ丸さんにぜひそこで演奏していただきたいのです


ホントですかっ
4日後
おーっほほほ
いえーーっ
鯛舞台ーっ
くっそーっ
まだかよーっ
遠すぎるーっ
うるさいなあ
帰れよ もう
才能のある
音楽家がやる
舞台だろっ
オレがやらずに
誰がやるんだよ
お待たせ
しました
あれが
鯛舞台です
あっ


あそこに生えているの…
ちょっかいヅルの最悪の奴じゃないか
ああジュガ種だぞっ
神聖な鯛舞台にからみつくとはっ
あのツルは相当に音楽にうるさい奴で
あそこに巣食って離れないのです


よろしい
私があそこで完璧な演奏をすればいいのですね
そうですっ
ちょっかいヅルをだまらせて下さい
行くぞツルども
「三日月ツメの痙攣的笑い」を食らわせてあげましょう
ヘッ 妙ナ曲名ダケガすごいっテイウ奴ダゾ
ひげガ気ニ入ラナイ
オッ


オオ
ウウ…ヤルジャナイカ
さすがに噂以上のバイオリンの名手
凄い
ウググ
ちょっかいヅル苦しんでるぞ
あの草はイヤミや毒説を言うのが喜びだからすばらしいことに出会うと苦しむのさ
ホホホここから盛り上がるぅ
ヒイッ
あれっ


舞台に紋様が浮き出たぞ
唐あげ丸さんの演奏に鯛舞台が反応しているのです
これ 親父 鯛舞台ってなんなのよォ
昔 この森に住んでいた鯛好きで楽器作りの名猫が作ったと言われてます
楽器作りの名猫!?
ええ あの舞台の下には楽器が埋まっているって話です
ホホホッ 最後の山場
アッ


弱点発見
えっ？
第38音ガ
微妙ニ高イ
ソーダ
高イ
ええっ
そんなっ
アッほら
ヤッパリ高イ
ナンダ
音感
悪イゾ
コイツ
27音ガ
低クナッタゾ
へったくそ
うう
早弾キデ
ゴマカシテル
ダケダゾ
完璧ノ
カケラモナイ
ヘタヘタヘタ
ひっ
キッキッキッ
屈辱
くっくっくっ



親方ーっ
しっかりーっ
ヤメロ
へたくそ
キエーーッ
オマエハ
三流以下ダ
さーーて いよいよ
本物の
出番じゃな
なんですか
アンタ
ツケひげ
なんかして
アタゴオルが生んだ
天才音楽家
ホシノミヤ・スミレ
聞けっツル野郎
ワシの自由音楽を
ブギ
うわっ


ナニガ
自由音楽ダ
でたらめハ
ダメダゾ
音ガ
でかいゾ
プゲー！
デカスギル
叙情性ノ
かけらモナイ
ナニ考エテンダ
コノ馬鹿猫
ナニモ考エテ
ナイ馬鹿音
うっ
ヒイッ
アア
音ガでかケリャ
イイッテモノジャ
ナイゾ
コラ
でぶ猫


アア寒気ガスル
くう脳ニ響ク
凄い音だな
ちょっかいヅルがイヤがってますよっ
「毒を以て毒を制す」の風景ですな
いや…
違います


スミレ博士の
ラッパの音は
並の連中の
出す音の域を
ぶっ超えています
ツルたちには
並を超えた者は
恐怖なのです
ヤメロ
音出スナ
ほーーーれほれ
離レロ
アッチヘ行ッテクレ
聞け
ツルども
自由
音楽を
ヤメロ
根ガ腐ル
あっ
ツルが
逃げ出したっ


おおっ 凄いっ
ああっ 紋様が浮いてきた
ええっ 舞台がこの音を!?
あっ
あっ
スーーッ
ヒデヨシの影が
スッ
ああ



ブーン
タタタン
プガーッ
ヒデヨシの影が
太弦ヒョウタン
弾いてる
イエ〜〜ッ
乗りが
いいぞう
タッ


水仙ラッパも
タイコも太弦も
勝手にドカドカやっているのに……
ブン
ダン
ええ
巨大なドンブリ鉢のような乗りの中で交差してるんですっ
ら
ああ
わくわく音の大嵐だ
樹液の匂いするぞっ
鯛の型の輝きだっ
うわっ



舞台が浮かんだっ
タンタントッ
ああ興奮しますっ
弾きます弾きます
しっかし
なんなんでしょうね
この光の鯛は？



うまそーな鯛の光っ
数日後のアタゴオル
気分のいい日もあれば
なんとなく気の重い日もある
そんな時は瞳を閉じるとまぶたの裏に
輝く鯛の残像が浮かんで
スーッといい気持ちになってくる
そうなんだ
ゴキゲンにさせているのはね


君の楽団が
鳴り響いてるからさ

第三話　ハカイノミナモト




ぐーっ ぐーっ
オレたちゃ欠食
ドラネコ団ぐーっ
親分春はいい匂いしますねえ
いろんな花が咲くからなあ
くさい
うっ
この匂いは!!
あの葉っぱの裏からです
コラッ
くさいぞヒデヨシ
んっ


マントだ
くっせー
ゲキ・シュー
汗がこびりついて洗濯しないから……
うわ親分
こっちにはズボンがっ
こんなくさいものすてて!!なんてめいわくな奴だっ
埋めろ埋めろ


めっ
パン
ふう
いいこと しましたね
パン
まったく
匂いの 暴力だよ
しんぴーーん
オヤジーーッ
マント できたかあ
ああ
しかし 一度に10枚とは いったい どうしたんだ?
当たったのよ



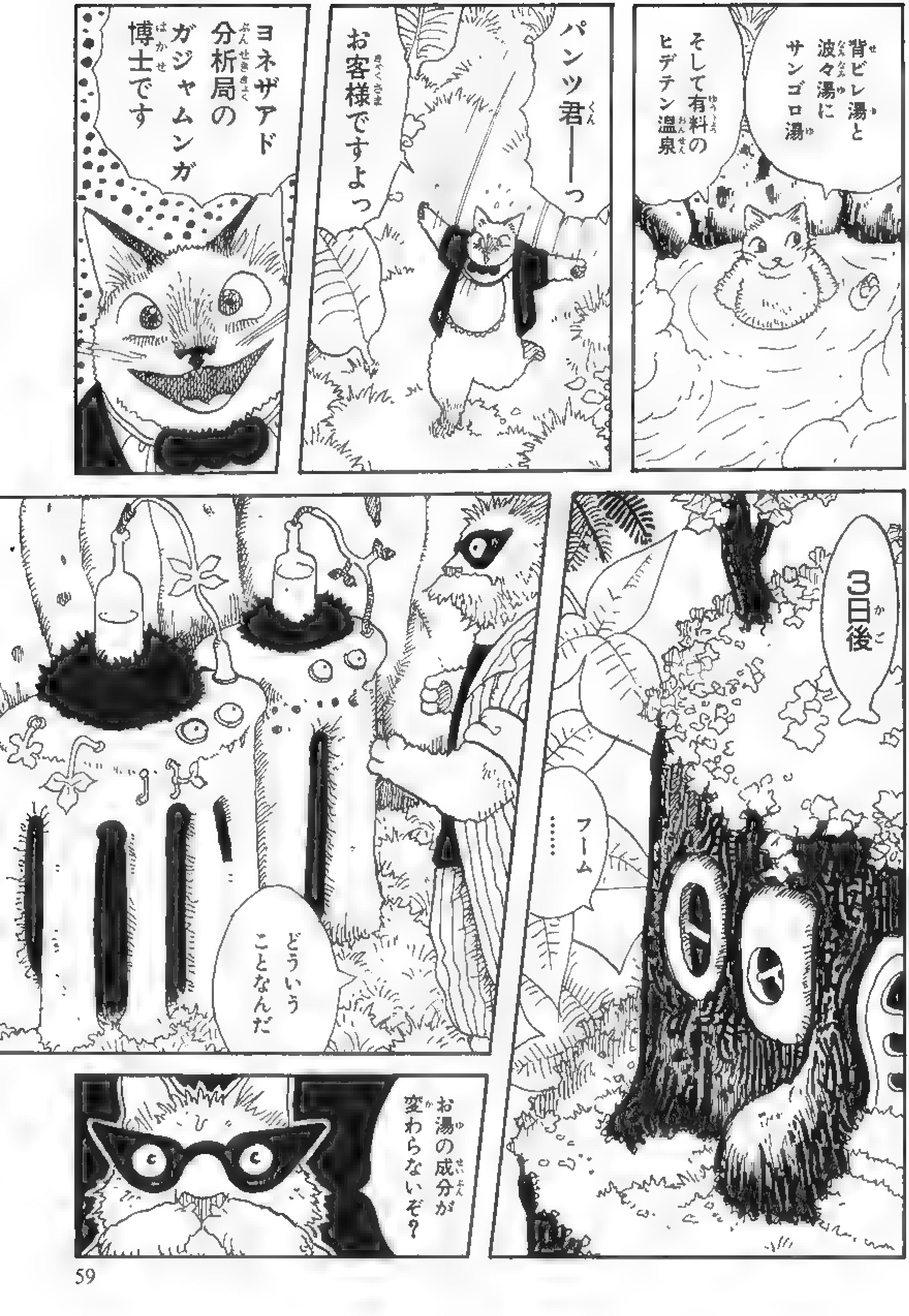
当たった?
蝶々富クジの3等が当たったんです
ほほほ
ついに当たったのさっ
んっ
ホラホラ
新しいマントだぜ
おっ
さすがにぜんぜん匂わない
洗濯しても匂いがぬけなかったもんなあ


そうなのよォ 魚屋に近づくと すぐバレて 困ってたのよ
あれっ
ダンナ様 だいじょうぶ ですか
うう
もうすぐ ですよ
最近 ああいうの 多いよなあ
温泉治療!?
ポンポン病という 不治の病にかかって 助からない方らしいぞ
なんなのよ アレ?
温泉治療です
助からないって 死ぬのか!?


ああっ
ポンポン病に
かかった者は
細胞が硬くなって
死ぬんだよ
1カ月後
お――っ
いらっしゃいっ
死にぞこないの
みなさ――ん
マタ
来やガつた
コノヤローッ
ヒデテン温泉の
お湯は効くわよ――っ
しか――もっ
温泉に御布施すると
モットモット
効くわよーっ



死んだら あの世に お金持っては 行けませーん
お金よりも 命が大事 なのよーっ
判るー?
だまれっ このタカリ猫 お湯なら 他でも湧くぞっ
ダンナ様 かんしゃく起こしては なりません ここのお湯が 効くのですっ
やっぱり
ザー
お湯の成分が 違うんでしょうね
ええ
地中には いろんな 物質があるから なにか溶けているんだね
こんなに たくさんの 湯がある のに
患者たちが 入っているのは


背ビレ湯と
波々湯に
サンゴロ湯
そして有料の
ヒデテン温泉
パンツ君ーーっ
お客様ですよっ
ヨネザアド
分析局の
ガジャムンガ
博士です
3日後
フーム
……
どういう
ことなんだ
お湯の成分が
変わらないぞ?



お湯の成分が変わらない!?
ああ
病に効くと言われている湯と効かないと言われている湯が…同じ成分だ
ホホホ
だから言ったでしょっ原因はお湯ではないと
スミレ君 お湯でないならなにが原因だと言うのかね
風呂を囲む岩にきざまれた紋様じゃよ
探せば必ずそこにタコの型の紋様がある
その紋様のありがたいお力によって患者は治るのじゃよ
お主の意見を聞いたワシが馬鹿だった
さて 次の分析に移ろう



ホラ酒代
やるから
帰れよ
失敬だな でも
銭はいただくよ
ところで
なんの分析
するのじゃ
湯ばなだよ
2日後
あったぞ
タコちゃん
どうだっ
これこそ
タコ紋様
コレのどこが
タコですか
しかし
おまえすごい
汗だなあ
ふーっ
頭がクラクラ
するわ


オレは熱いお湯は嫌いなのじゃ
ぬるーいお湯が好きなのさーっ
あっ
タッ
タ
パンツ君
あんなにあわてて
さては万引きして魚屋に追われているにちがいない
…もしかして
そうか
分析の結果が出たんですね
おおーい
どーなったのよーっ


なんですか コレは
湯ばなの中に 含まれていた 新発見の 成分だよ
ポンポン病の 患者たちが入って いる4つの湯の 湯ばなにだけ 含まれていたのさ
それじゃあ この成分が!?
ああっ その成分が ポンポン病を治している のはまちがいないのだが
しかし
なぜ 4つの湯だけに この物質が 存在するのか
それが謎なんだ
確かに 不思議 ですねぇ


だがその謎を解くことでこの成分の正体にたどりつけるかもしれない
あーっ もしもし ガジャムンガ君
この銭でどーかひとつヨロシクッ
ん?
お金なんか持ち出して お主 なんのマネだ
この発見を売ってくれなどと言ってるんじゃあないのじゃ
だが せめて
その成分にワシの名を
「ホシノミヤ・スミレ」とつけておくれ
貴様ーっ 研究の道をなんだと心得ているんだっ
少ないか? 少ないならもちっと出すぞ
まったく話の判らない奴じゃのう
おまえがオカシイんだよ


堅物はツマランタコのようにクネクネと生きるべし
絶対妙だよ
どうしてこっちの湯の湯ばなにあの成分がないんだろう
そうだよなお湯は同じなのに
3日後
ふーーっ
んーーっ
あれ
みんなどうしたの?
湯ばなの謎を調べているんです
背ビレ湯・ヒデテン温泉波々湯そしてサンゴロ湯


どうして この4カ所だけ なのか?
ヒデヨシの家
背ビレ湯
サンゴロ湯
ヒデテン温泉
波々湯
テンプラの家
……フーム…… 斜線の部分が みんな温泉でしょう
そうなんじゃ 波々湯なんか… となりのヒゲゆで湯の 湯が流れ込んでるのに
あれっ
この4カ所って…
ツキミ姫 なにか判ったのか
これってさ
ヒデヨシ君が 入る温泉だよ


ええっ
あーっ そういえば そうですっ
どっどっどっ
どういうことですかあ
まさか……
こいつの体のアカ!?
おおっ
出たぞっ
出たっ
アカですか汗ですか?
汗からだ


オレの汗が？
ただのくっさい汗じゃなかったんだ
おまえの汗は命を救う汗だ
薬草屋
ガラ
なんだありゃ？
ガラ
ハア
ハア
ガラガラ
ガラガラ
ドス
ドス
あいつの汗が不治の病を治すんだとさ
ガラ
薬草屋が汗を買い上げるらしいぞ
んっ


ホント
ですかっ
ああ
おーいヒデヨシ
おまえのくさいマントは
どこにあるーっ
へ？
今流してる
汗よりも
乾燥して
こびりついて
ねかしたものの方が
強力なんだとよ
去年から
洗ったことのない
マント一枚につき
金貨20枚で買うぞ
きっ
金貨20枚
いや〜〜〜っ
みんな
サンコの森に
すてたのよオ
なに!?


捜せーっ
わーーっ 金貨20枚だぞ
見つけた者のものだぞっ
くっすおくくっ どこにすてたんだあ
もーっ 思い出してよ
大声出さないでさっ
しかしくさいマントを必死で捜す日が来るなんてなあ
これは悪い夢を見ているのではないか
ヒデヨシってホントに記憶がありませんね
プップップ サンゴの森なんかにあるわけないのに
ホレホレ
おーーっ 宝の山だーっ


ぐーっ ぐーーっ
オレたちゃ金持ちドラネコ団ぐーーっ
くっさいマントで金持ちにーっ
大変です ドラネコ団がマント発見しましたあ
なにーーっ
ホントに宝物扱いですね
あの物質はあいつの名前をとって


「ヒデニラ」と名付けたそうです
激臭の気配が出てますな
しかし
そのヒデニラという成分がどうやってポンポン病を治してしまうのでしょう?
博士とパンツで調べているようです
やっぱり毒を以て毒を制すってやつですかねえ
ヒデニラ…強力そうですなあ
おーーう判ったのよーっめでたいのよーーっ
えっ?判った?
よいかな



この青いのが病んだ細胞で
鉄よりも硬いんだ
周りで動いてる
黄色いのがヒデニラ
うう
わくわく
この悪党細胞を
ヒデニラが
ぶっとばすんですね
ふつうは ぶっとばしたり
殺したり するんだが…
んっ
あっ
痙攣してこわれていく
これって……
ああ
ヒデニラによって


笑いすぎたんだ

第四話　雨音（あまおと）




ザーッ
雨の粒々おどってるーっ
ホントに憶えてないのか？
知りませーん
ホラ あれだよ


お天気だったら傘をさしーっ
雨が降ったらさしまくるーっ
タンタンタン
誰だ アイツ
陽気な傘売りだよ 行商のさ
やーっヒデヨシ君にテンプラ君
なんでオレの名前知ってんだ?
アンタなんか知らないぞォ
えーーっ 忘れたんですか
去年ダンゴ屋でおごったのに 食い逃げしたじゃないですか



記憶力がないのです
ところでアンタ傘売れてんの?
ぜんぜん売れませーーん
ザーー
雨の露天風呂ってエーもんですなあ
ええ
しかし去年来た時はこんなに温泉湧いてなかったぞ
ほほほ
みんなオレの実力なのよーっ


あ〜〜っ
行きたくねーよなあ
んっ
よっ君たち学校なんか行かなくていいんだよっ
にゃっ？
それじゃどこに行きたくないんだ？
学校から今帰るところだよ
塾ノ森だよ
ジュクノ森？
？？？？
なんだそりゃ？



塾ノ森って勉強する所だよ
ザー…ッ
勉強!!
学校で勉強してまた 勉強に行くのかー?
さては君たち勉強好きなのねーーっ
好きなわけないよ
嫌々行くんだよ
ああ ツライよ
諸君
ツライことはやんなきゃいいのよ
勉強なんかしなくったってだいじょうぶっ
字なんか読めなくても食い逃げはできるしさっ
朝から風呂入って酒飲んでっ踊って暮らせるのよォ


イエーーッ
最高のテッペンの
毎日なのよ〜〜っ
やっぱり
塾行こう
ああっ
アイツみたいには
なりたくない
ヒデヨシが
踊れば踊るほど
アタゴオルの森の
子供たちは
勉強するんだな
すんごい
ですねーっ
コラ
なぜ逃げる
ようし
待て
助けて
やるぞ
ギュッ
勉強すれば
イイ事があるという
ウソの泥沼から
助けて
あげるわよォ
ドス
うわっ
追っかけて
きたぞ
ひえーっ



なんでこんな目に遭うんだよォ
たまらーん
ザーッ
ふうやっとあきらめたな
とんだバカ猫だよ
でもやっぱり塾ノ森行きたくないよなあ
そうだヒデヨシにつかまったことにしてサボっちゃおうか
サボる子供はーっ
わっ
ザッ
幸せになるーっ
助けてっ
うわーっ
ドス
コラーッやめろーっ
ドス
ああ


鼻曲がりの木が
あんなに近いって
ことは…
ここは
立ち入り禁止の
龍首森だぞ
そーです
子供は
立ち入り禁止に
入りたがるもの
誰がこんな
恐ろしい所に
入るかよ
子供に必要なのは
勉強なんかじゃ
なく
手に汗にぎる
冒険なのです
じゃ
君たち
けんとうを
いのる
あっ
コラ
ヒドイ
奴だな
あ



出た
おおっ
龍首草
逃げろっ
助けてっ
ひえーっ
ほほほ
あわてて
動くと追っかけて
くるんだよな…


さーて
オトリに気をとられてるスキに
コイツの根元に……
ウエッヘヘ
オッ
生えてる生えてる
これは大漁だわ
んまいのよこのキノコ
うっ
ギュッ
キャーッ


ひえ〜〜っ
オレじゃなく
子供の方がうまいわよォ
ザーーッ
らっ
ザーーッ
なんだーっ おまえたちかじられなかったのか残念…
冗談じゃないよ まったく
こんな奴に関わるくらいなら塾ノ森に行った方がマシだぜ
毛一本マデ馬鹿ノ匂イ
なんだとコラーっ
らんららん
来タゾ大でぶ
脳みそモタダノ肉ノあんぽんたん


くっそーっ
生意気なちょっかいヅルめっ
ちょっと親方
なんなのよ
あのツルどもは
ヒデ丸
離してくれ
私に切らせてくれ〜っ
ダメです
昨日切ったから
あんなに増えてきたんですっ
切れば切るほど
繁殖するんだから
タチ悪いんだよな
親方そんなことより
珈琲おかわりして
ナンダト
ぱんつ
少シ位ノ知識デ
判ッタ風ナ声デ
ヨクモ ソンナニ
臭イ珈琲
飲メルナ
臭い珈琲
ですとオーッ
許せん
断じて許せん
あれれ
ヒデヨシ
その風呂敷の中
なに入っているんだい？


じゃ〜〜〜ん
キノコじゃないか
パンツ これ なんというやつ？
んっ
見たことない …なんだコレ
へーっキノコ博士のパンツ君でも知らないのがあるなんて
龍首森の龍首草の根っこのわきに生えてたのさ
ええ 龍首草って
食肉植物の中でも凶暴な奴だぞっ
このキノコ食うと腹がチリチリ焼けて ゲラゲラ笑えるんだよ
どう見たって毒キノコだな こりゃ……


これって…もしかしたらーっ「フロフロ茸」かもしれませーん
フロフロ茸?
えぇーっ お風呂に入れてーっ 入浴するという…
よーし それではヒデヨシ風呂でやってみよーっ
ヒデヨシ風呂?
ザ
う〜っ キノコのお風呂って お湯の感じが違いますなあ
ヒデヨシ風呂って


ソンナ風呂ニ入ッテルト脳ガ焼ケルゾ
ザ——ッ
おまえん家の前かあ
コラ——ッ
ちょっかいヅルーッ
よくもオレん家にからんだな——っ
3日モ帰ラズぶーら・ぶら
猫ハ腰ヌケ家モぼろぼろ
3日も家に帰らなかったのか?
草むらでフカフカ野宿なのさ
ジャブン


しかし
このキノコ風呂
確かにお湯が
しみてくるぞ
いい
感じ
雨の中で風呂に
入っていると
世界中が
お風呂のような
気がしますね
雨トオ湯トノ
区別モツカナイ
子供ノ甘サ
うーーっ
腹立つなあ
やっぱり
ぶった切り
たくなりますね
キノコ風呂
いい湯
です
…ふう……
風呂入っている時は
いくら雨降ってても
平気だけど
服着ちゃうと
傘がいるよな
ザーーーッ

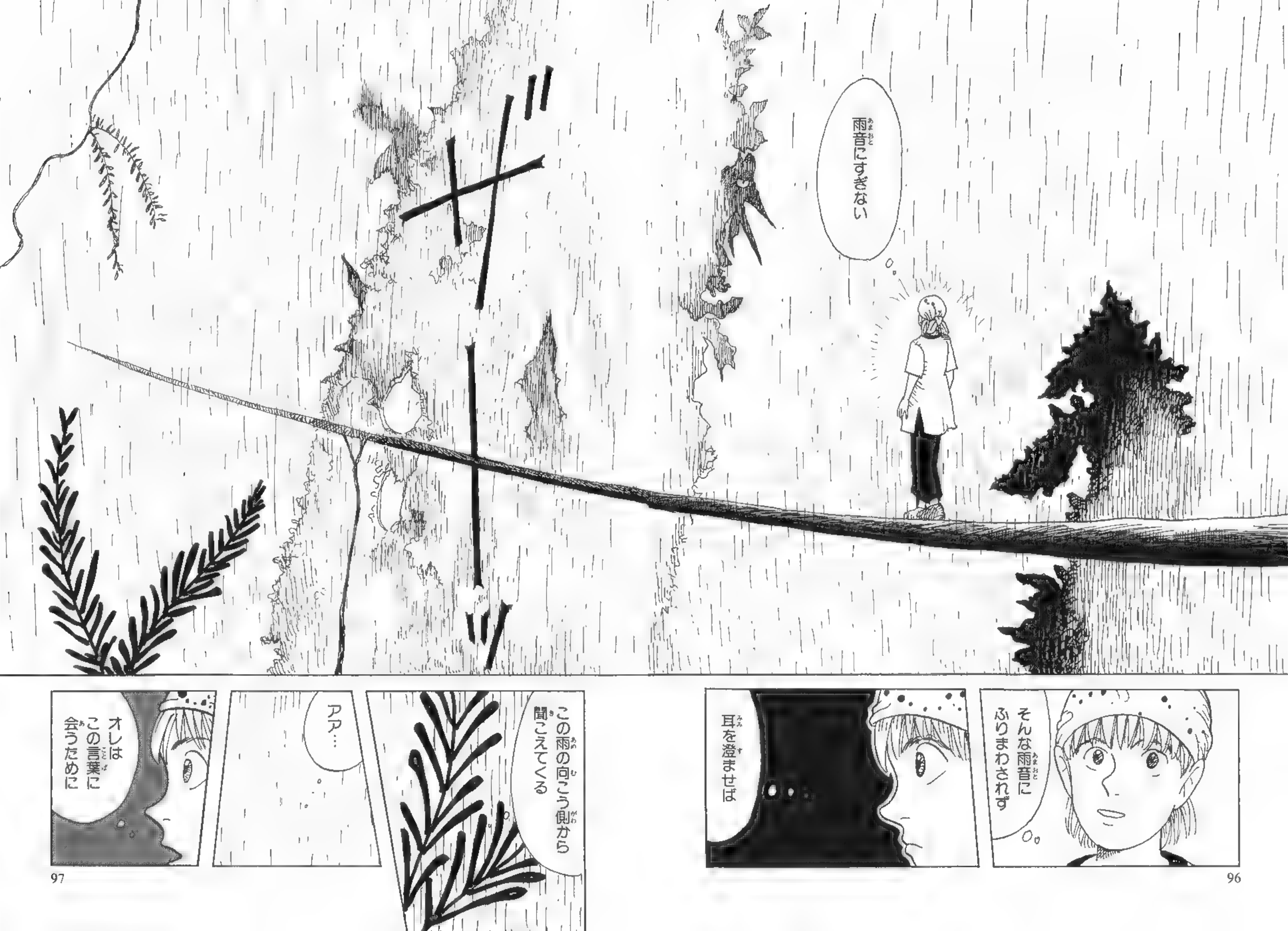

ザーーーッ
あれ
らっ
雨粒が当たらないぞ
なんて不思議な感覚
わーい傘いらずーっ
傘作りの世界で伝説のキノコと呼ばれていたのは
コレのせいだったのかあ
何ガ伝説ダ
傘持チタクナイダケノ横着ドモメ
横着けっこう


ちょっとーーっ
ヒデヨシーッ
オッ いんちき
占師
偉ソーニ
登場
感情的ニ
大声出ス女
イト哀レ
オッ ちょうかいちゃん
もっと言ってくれ
あんた
モツカラ
楽器屋の
子供を
無理矢理
龍首森に
つれて行ったん
だって!!
ハテ? なんのことでしょう
なに
すっとぼけて
んだ コラッ
どうして
そういうことを
すんのよっ
だいたい
あの森が
どれだけ危険か
アンタだって
判るでしょう
ガミ
ガミ
変だなあ
どうして
ヒデヨシ
平気なんだ?
あっ


ザーーッ
（行きたきゃ）
ザーーーッ
（ひとりで行きなよっ）
おほほ
こりゃイイヤ
ザーザー
ザーザーッ
雨の音しか
聞こえないわ
ザーーッザッザーッ
（こらっなにをニヤニヤ
してるんだっ）
雨の音だ
テマリちゃんの声
雨音になってる
ザーーッ
（えっ どういうこと!?）



たぶん…… オレたちの頭から出てるボンヤリとしたキノコのせいだ
ザーッ
（えっキノコ？）
ザーーッ
（キノコなんて見えないよ）
ザーッ
（ナニ言ッテンダコイツラ）
ザーーッ
（サテハ狂ッタナ）
おおっ ちょっかいヅルも雨ザーザーッ
フロフロ茸偉いっ
ザーーーッ
ののしり
なげき
憎しみ
でも ほとんどの言葉は



雨音にすぎない
ザー
そんな雨音に ふりまわされず
耳を澄ませば
この雨の向こう側から 聞こえてくる
アア…
オレは この言葉に 会うために


生まれて来たんだ
ザーッ

第五話　通底火口




ミーン
しぶとい奴なのよーっ
変だなあ
まだ活動するなんて
春が来ると静かになるんですがねえ


んっ
ホントだ
暑くてたまんないのよーっ
なんでこんなに活発な噴煙を上げてるんだろう
火口のあたりから酒の匂いがするな…
ときどき酒流し込んだりしてるのよ
熱カン用にな
おまえ 種屋が言ってただろう 火山草って酒の糖分を与えると枯れなくなるんだよ


おのれっ
こうなったら
ホレホレ
こうやって
ふさいじまえば
いいんだよ
ぺたん
ぺたん
そんなこと
しても
噴火する
だけだぞ
なんだ
この根っこ
ガサ
ガサ
ガサ
ガサ
ガサ
あっ木戸に
からみついてるぞ

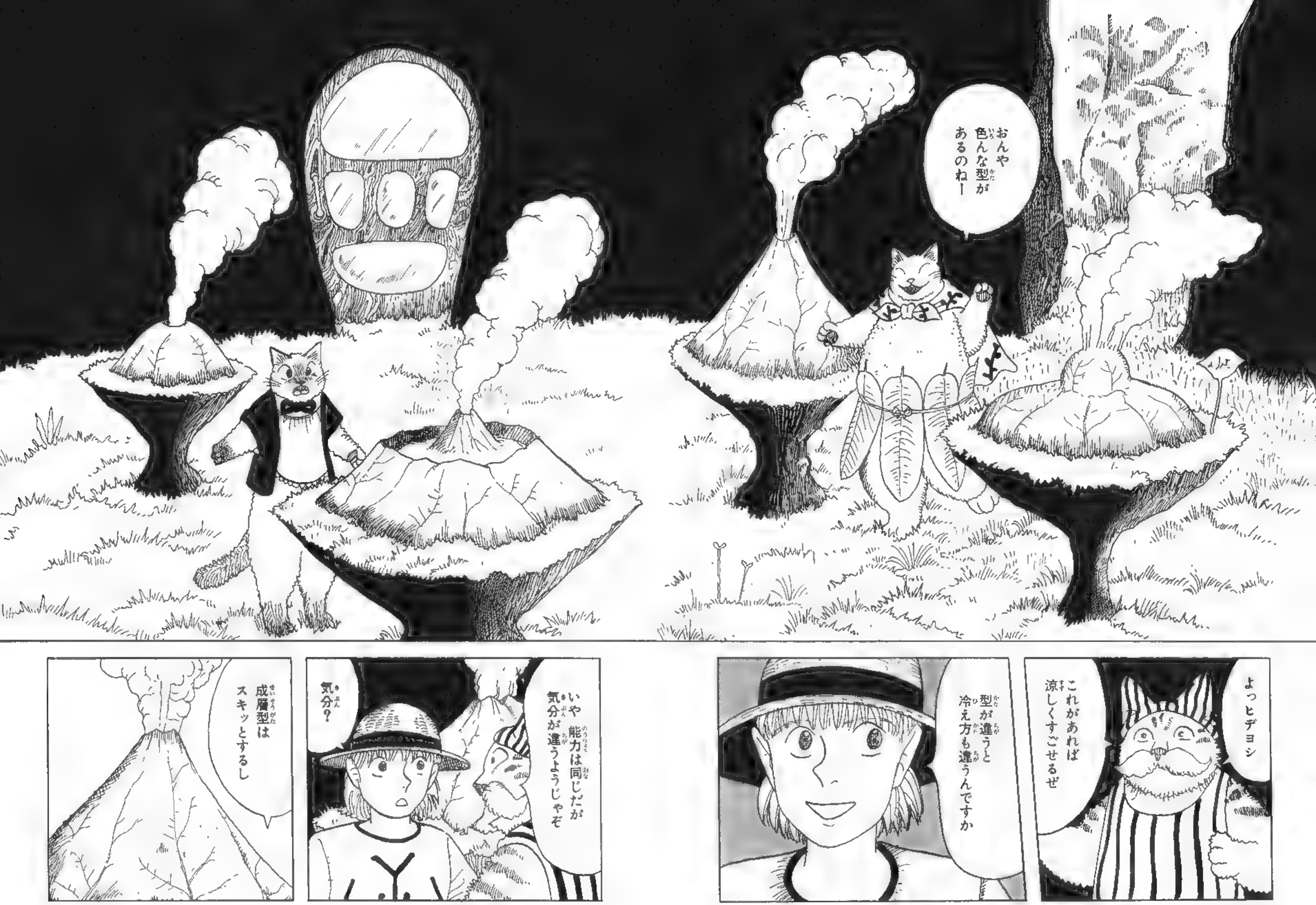

ドドッ
あっ
ゴーーッ
暑ちーっ
たまんない
よ〜〜っ
熱部屋だあ
窓も根が
からみついて
火山草の野郎
オレたちを
とじこめる気
だなあ
うーっ
ドドド


ドガッ
くっそーーっ
とんでもない
野郎だっ
ミーーーン
しかし
あれじゃ
家にいられませんねえ
そーなのよ
だからテンプラ
泊めてけろーっ
やだよ
冷たい
奴だな


こうなったら パンツんちに 行って 冷たい ブドウ水でも 飲みましょーっ
いいですねっ
いないんじゃ ないの
そうですねっ 窓が閉まってますよ
いなくても いいのよ ブドウ水!!
あれっ
涼しい
ホントだ まるで 谷川のような
らっ


おう
火山草が!?
あれえっ
なんだコレ
冷気を噴き上げてるぞ
うう
気持ちいい


いいなあ コレ
どうやったんだ?
オレんちのなんか
熱いのしか
噴かないぞ
夏用の
火山草だよ
夏用?
マダラ種屋
で売り出し
てるぞ
さーさーっ
冷んやり火山草
種1個 30銅貨って
おまえ
金持ってるのか
なくても
買うのよ
イエーッ
種くれーっ



おんや 色んな型が あるのねー
よっヒデヨシ
これがあれば涼しくすごせるぜ
型が違うと冷え方も違うんですか
いや 能力は同じだが気分が違うようじゃぞ
気分?
成層型はスキッとするし


船型だと
ホンワリとした
気分になる
ようだぞ
おやじさん
コレは？
それは
複式だから
気分が
二重になるんじゃよ
うーむ
親方には
コレはやめた方が
いいなあ
どれでも
30銅貨だよ
どれにする？
全部
くれ
えっ
おまえ
金持ってるのか？
ないけどさ
これなら
どう？


あっ
輝天脈草の実!!
十分かな?
ホホホッ
十分ですとも
この火山草の種 いったい どこで手に入れたんですか
旅の男が売りに来たんだよ
あれがそいつの忘れてった風呂敷さ
あれ
どこかで見たことあるような?
トントコトッ


ト・ン
ト・ン
早く芽が出ろ
ホレホレ
ボコッ
オッ
スーッ
シューーッ
おお
涼しい


涼しいのよーっ
まるで火山部屋ですねっ
噴かせすぎじゃないの
冷んやり冷んやりホッホッホッ
うっ
寒い
3日後
ミーーン


ミ・ン・ミーーッ
おうパンツーッ
こんな所にも火山草が
ああっ野原を囲むように点々と噴き上げているぜ
まるで寄生火山みたいなもんさ
寄生火山？
うん
どまん中に大きな火山があってさ
その周りに小さいのが寄生火山として噴き出してくるのさ
まん中に巨大なやつ？
しかし コレだって十分大きいぞ誰が植えたのかなあ
にゃあ
あっ


ズウッ
でっけーーっ
なんだアリャ
うわ
とんでもないのが現れたぞ
ズズ
キャーーッ
噴火だ
大噴火っ
あれっ


これ…
かき氷だ
ノボリーを立てて
火山噴火してぇ
噴火口から
やって来る——っ
あっあの唄!!
おおっ
美茶だっ


アタゴオルのみなさ〜〜〜ん一年ぶり〜〜〜っ
あら誰だっけアンタ!?
コラ美茶オレだよヒデヨシよっ憶えてないのっ
こんな汗くさい男忘れるわけねえよひさしぶりーっ
まっ コノヤロ
そうか
種屋にあった風呂敷の印は美茶さんのだったのか
しっかし火山草の噴火口からかき氷噴かすとはスゴイんでないの
かき氷好きの火山草研究家と仲よくなってな
火山草の種を開発してもらったの


このかき氷 なんだか 不思議な 冷たさ しているな
それ 南極の氷 なんだってさ
南極!?
そうよ あの噴火口は 南極に つながってるのよ
ふふ
イチゴ液の 噴火
うっ
んまっ
ジンジン 気持ちは


南極気分
気持ちえ〜っ
そうだ…
コレを左に回して火口の一部をふさいでおけって言われたっけ


らっ
ボキッ
だまってんべ
まさか大噴火するんじゃないだろうな
大噴火はしなかったのですか…


人鳥

第六話　ツキ刺サレ




ミーー!!
一日一度は
糞茶のかき氷
クセになるんだよなあ
馬鹿だなあテンプラ
この字が読めないのかあ
あれっ
それじゃあパンツおまえ読んでみろ
なんだ?


も——っパンツ
これが読めないのか
フン
ガア
「ガァ」じゃ
ないのよ
「ヒ」なの
判ったかなあ？
らっ
判んないよ
おまえが作った
ヒデヨシ文字
なんか
猫パンツに人テンプラ
なにが
猫パンツだよ



あっ この帽子 去年オレが なくした やつだ
オレんちに 忘れてったのよ
おまえ 早く返せよ
ガ
こら パンツ
よそ見するんじゃ ないよ
見ちゃ おれん
放置します
こら待て どこへ行く？
あれ


ゴエ
人鳥 ついてくるぞ
ほほほっ テンプラに パンツ
オレを たよりにして けなげだわ
猫パンツも人テンも 素直になって もっと正直になって
オレを たよりに しなさーい
なにをたよれば いいのかね
借金の 踏み倒し方 かなあ
食い逃げに 失敗した時の 〝うそ泣き〟の仕方も あるわよ



ゲ〜〜ッ
おーい美茶
巨椀一丁
並1つ
いらっしゃい
待ってたぜ
ホレ
巨椀じゃ
らっ



ガラス吹き屋に たのんで 作って もらったのよ
これなら 食い切れない でしょーーっ
甘いぜっ おかわりする わよっ
はぐ はぐ
なんで こんな食い方 しなきゃなんないの
ああ
夏の味
冷んやり
おっ夕陽
夕陽を見ると 私は吹きたく なる


王
んっ
銀ハーブ(ハモニカ)にしてはシブイ音
らっ
くーっ ひっさしぶりに銀ハーブ吹きたくなったわ
そこの箱の中に入ってるよ
にゃっ
なんだコレは?
オラは銀ハーブの収集家なのよ
相当古いのもあるよ
あっ


これ……ナスナ時代の細工師ラリピリが作ったハープだぞ
ええ!?
あらまっ そんなに古いの!?
ラリピリの印が刻んである
ラリピリ?
ああっ伝説の細工師さ
大陸のあちこちに奇妙な装置を残してるんだ
アタゴオルにもなにかあるのか
いや 彼がこの地に来た記録はないよ
どれどれ 貸してみて
ナスナ時代の音色を吹いてあげよう


けっこう変な音色だなあ
美茶 うまいじゃないの
あらっ うれしいねえ
ところでよ あの青緑の森
あそこに近づくと頭痛くなるな
あそこは「ツンツン森」といって近づく者みんな頭痛を起こすのです

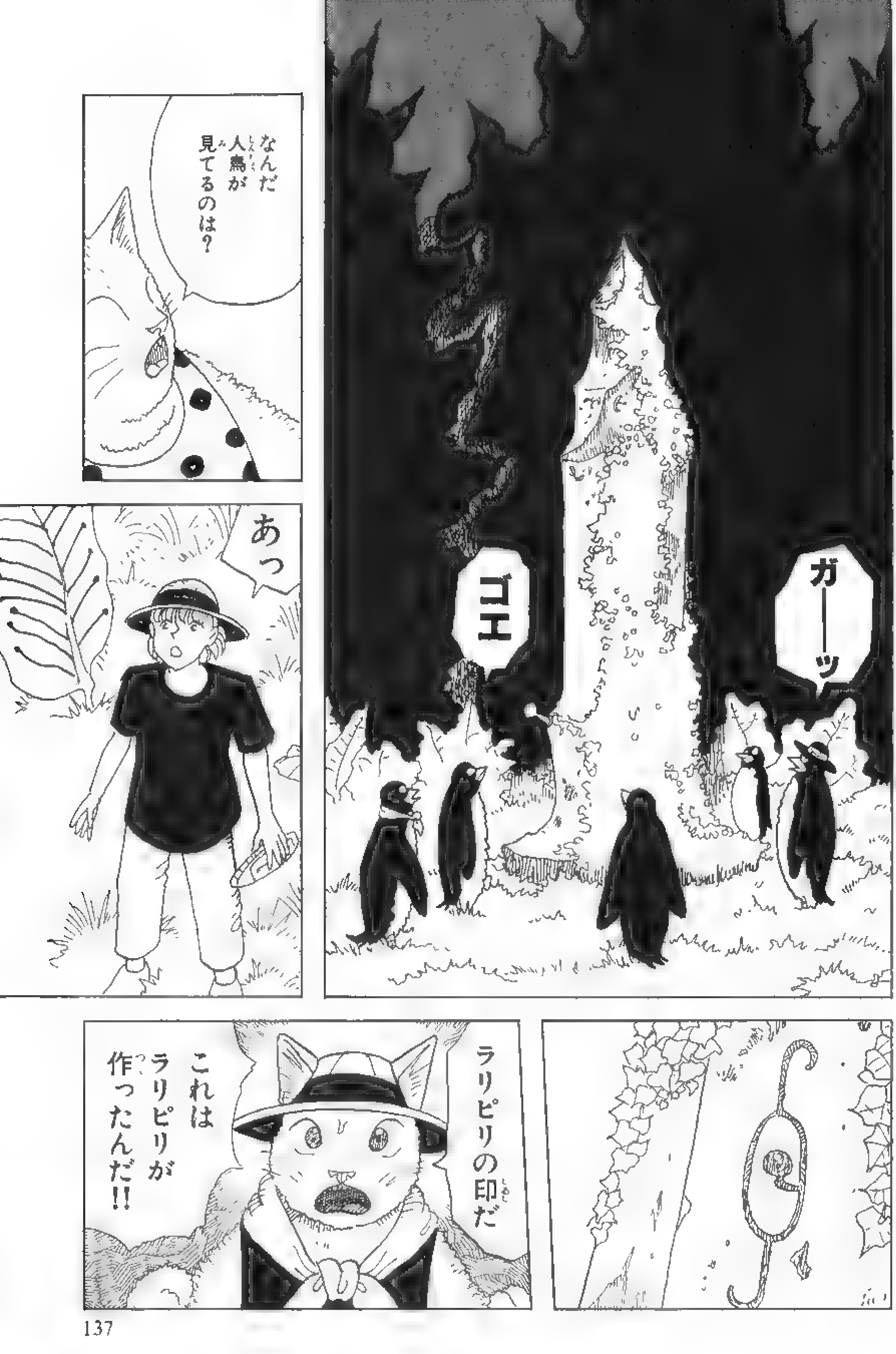

平気なのはヒデヨシだけです
鉄の脳ミソ強いのよ──っ
あれっ
人鳥がツンツン森に入って行くぞ
なんだっ人鳥もヒデヨシ並みの頭なのかーっ
あら
アレは人鳥のテンプラにパンツではないか
同じテンプラとして助けに行こう
なに言ってんだ


ホラー
もっとこっちへ来いよーっ
痛たたっ近づけないよ
おまえホントに痛くないのかあ
平気だよォ
おーいっ テン鳥ーっ パン鳥ーっ どこにいるのよ〜っ オレのイイ音を聞いてもどって来ーーーい
あ
あれ
どういうことだ?



頭痛が止まったぞ
オレの旋律がおまえたちの脳をいやしたのさーっ
うーー
ホラ 休むんじゃないよ ハープ吹き続けろ
テン鳥 パン鳥なんかもうどうでもイイよ
帰っぺよ
翌日
人鳥がみんなツンツン森に入って行ってもどらないんだ
あの森の中になにかあるな
んまいものだ
人鳥どもはんまいものを食いまくって帰らないのだ いそがねば食いつくされる


テン鳥ーっ
パン鳥ーっ どこにいるのォ
んまいものは どこだあっ
フーム…… 伝説の細工師 ラリピリの 作った銀ハープが
ツンツン森の 頭痛を消すとは… どういうことなんだ?
くっすおーっ この森 けっこう深いなあ
あれっ
なんか 聞こえるぞ
らっ


ガーーッ
ゴエ
なんだ人鳥が見てるのは？
あっ
ラリピリの印だ
これはラリピリが作ったんだ!!


なんなんだコレはっ
うっ 頭が痛いっ
あっスイマセン
あらん
これを動かせば……？
んっ
んぐぐっ 動かねえ
んっ
「吹け……飛べない南の大鳥とともに」
古代ナスナ語
テンプラ この旋律を
ああ



ガウ
ガア
あら
唄ってる
ゲ
ガエ
ジッ
ジジジ
うっ


クワーーッ
!
逃げろっ
キャーーッ
なんだ
この感じ
これって
変な
磁場が
できたんじゃないか
ふう
ハア


!
にゃっ


釣り針の極光
キャー


うっ
わあ
イエーーーッ
あれ？
これは オレが最近 気に入っている銀ハープ
そうかっ
夢中になるって ことは


快感の釣り針に刺さっていることなんだ
ベッタリした地面から
浮き上がっていく気持ち良さ
最高気ん持ちえーのは紅マグロよりやっぱり
酢ダコなのよーっ
夢中の釣り針は降りそそぎ
オレたちを待ちぶせしてる
ホラ 今年も君をつかまえに来た


夏の釣り針

第七話　ホオズキ




おおっ スゴイ
ホイホイホイ
噂は本当だったな
さっそくたのんでみよう
ダメですよ コレを読んで下さい
『旅の心得 アタゴオル編』
『ヒデヨシ』旅行者をだましたりタカッたりする男なり近づくべからず


じゃ どうすれば!?
その次の頁をめくって下さい
「この男で困った時は テンプラあるいは パンツという者に 相談すべし」
テンプラに パンツ…!?
こいつらも グルか?
パンツの家
ほう 銀しぶき海の ホオズキ島 から……
ええ 私たちは 島で幼稚園を やっているのですが
園児が 園長先生にしか なつかないのです



その園長がブクの毒に当たって死んでしまい
それで困っているんですが
これが園長の顔です
うっ
ヒデヨシそっくり
ホントだっ
まるでヒデヨシだ
それでヒデヨシさんに園長をやってもらいたいのです
お礼は紅マグロたっぷり
ほう それで園児はどのくらいいるんですか
園児はですねえ…
えっ
ホントですか!?
ザザッ


オーレーは
よーちえんの
園長さん
紅マグロが
どっさりこっ
ハーッ
海はいいです
ねえ
波を見ていると
旋律が湧いて
きます
それで ヒデヨシに
説明は したの？
したからといって
どうなるもんじゃ
ないだろう
確かに
そうだねえ
おっ
島だ



キャーッ火山島だわーっ
あれがホオズキ島です
あっ死んだはずのガンガラ園長
ちがうのよヒデヨシ園長なのよっ
しかしよく似てるなあ
「にこにこ幼稚園」ここだね
おーっまさに園長そのものです


それでは
これを
腕につけて
下さい
なんなの？
園長の印
かな？
あら
なんで
おまえたちも
つけてるんだ？
さあ？
それでは
園児が
お待ちかね
です
さあ
こちらへ
イエーッ
よい子の
みなさーん
ヒデヨシ
園長なのよっ
ヨロシクッ
ら


タコばっかり
幼稚園って
タコの幼稚園なのかよ〜〜っ
痛てっ
なんだっ
この痛みはっ
んまそ〜〜っ
かわいいから食っちゃいましょーっ
ジュル
ヒデヨシ君がタコを食おうとするからです


やめろっ ヒデヨシ
紅マグロの御ほうびがもらえなくなるぞ
うがっ
バチ
バチ
しびしびしびっ
なんなのよっ コレーッ
テンプラ君とパンツ君の良心の力です
良心なんかイラナイわっ
あとでもらう紅マグロより目先のタコなのよーっ
ダメだ これはっ 先に こいつの腹を!!
はぐ はぐ


んめ〜〜っ
やっぱ紅マグロはタコより上ーーっ
あ〜〜っ 食ったっ 食った
寝ます…
あっ チョッとオ
ぐ〜っ
なんだ コイツ
顔は前の園長だけど心は全然違うぞっ
ひょっとして私はカスをつれて来たのでは…
今ごろ気づいたんですか
えーーっ
ところで このタコ めずらしいですね


ええ
このホオズキ島の
周りにしか
いない貴重なタコで
グンジョウ・ダコと
呼ばれてます
数が少ないので
大切にそだてて
いるのです
あら
グンジョウ・ダコ
うっ
プクプ
ぐ〜っ
プッププ
タコたちが
遊んでくれと
さわいでるんです
う〜〜っ
も〜〜っ
……うるさい
な〜〜っ



なんだよ もく〜〜っ
プクプフ
クプクプ
粘土遊びをしてほしいのです
しっかし こーゆーのって はまるのよ ねーーっ
ペタッ
タコの子供 けっこう 上手だね
ああ…… ヒデヨシ それ なんだ？
見りゃ わかっぺよ
紅マグロ


プショショッ
プッショッ ショッショーッ
タコが笑ってる言葉が判るんだ
造型力もヒデヨシよりすぐれてるし
園長より園児の方が上かな?
おのれっ タコの小僧どもめ
こうなったら積み木で勝負だぞ
プクプク
プップッ
あらら
うーむ
どう見ても

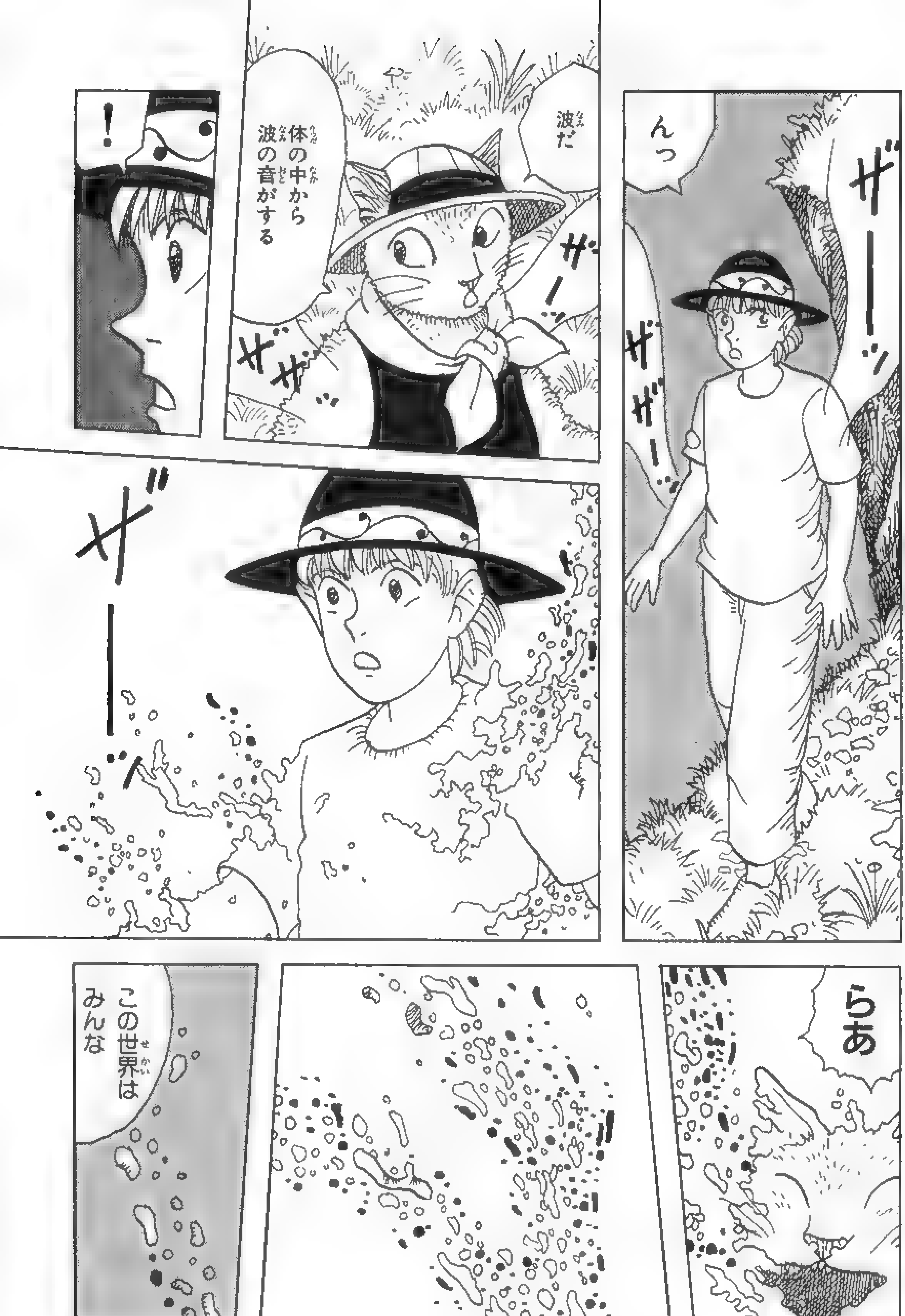

タコの勝ちーっ
うう
プショッ
ショッ
ぐやじい
悔しいのよーっ
ポシェン

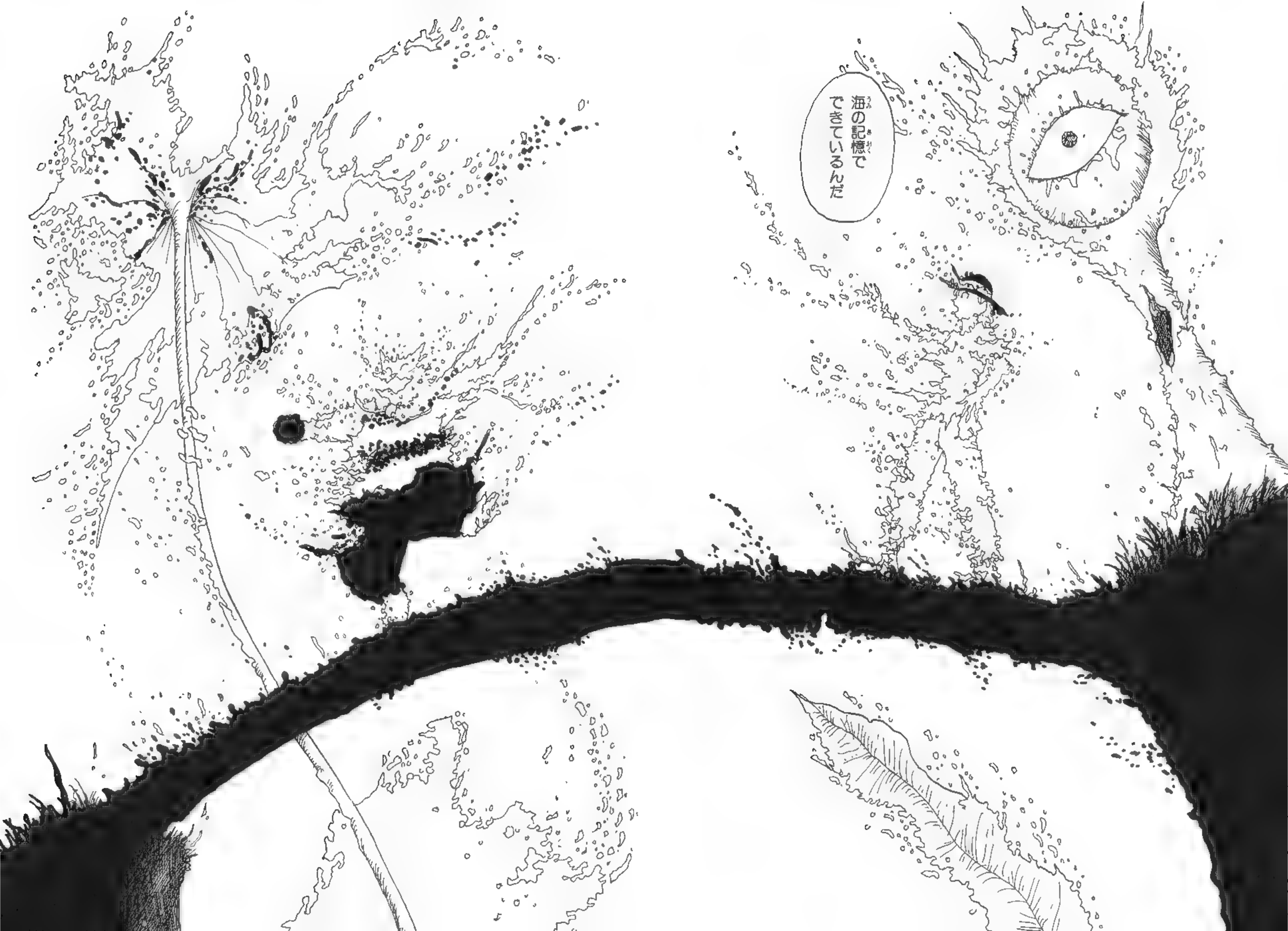

あっ
無音の筒が
鳴ったっ
信じられん
前の園長でさえ
2度しか
鳴らせなかったのに
ヒデヨシ君は
腕力ありますからねーーっ
あれは腕力では
鳴らんのじゃ
グンジョウ・ダコの
気持ちと
連動する
らしいのだ
タコの
気持ちと?
ほほっ
変な音っ
面白っ
ポシェッ
ポシェン
ポシェン
シューーッ
あっ
湯気吹いて
るぞっ
うっ

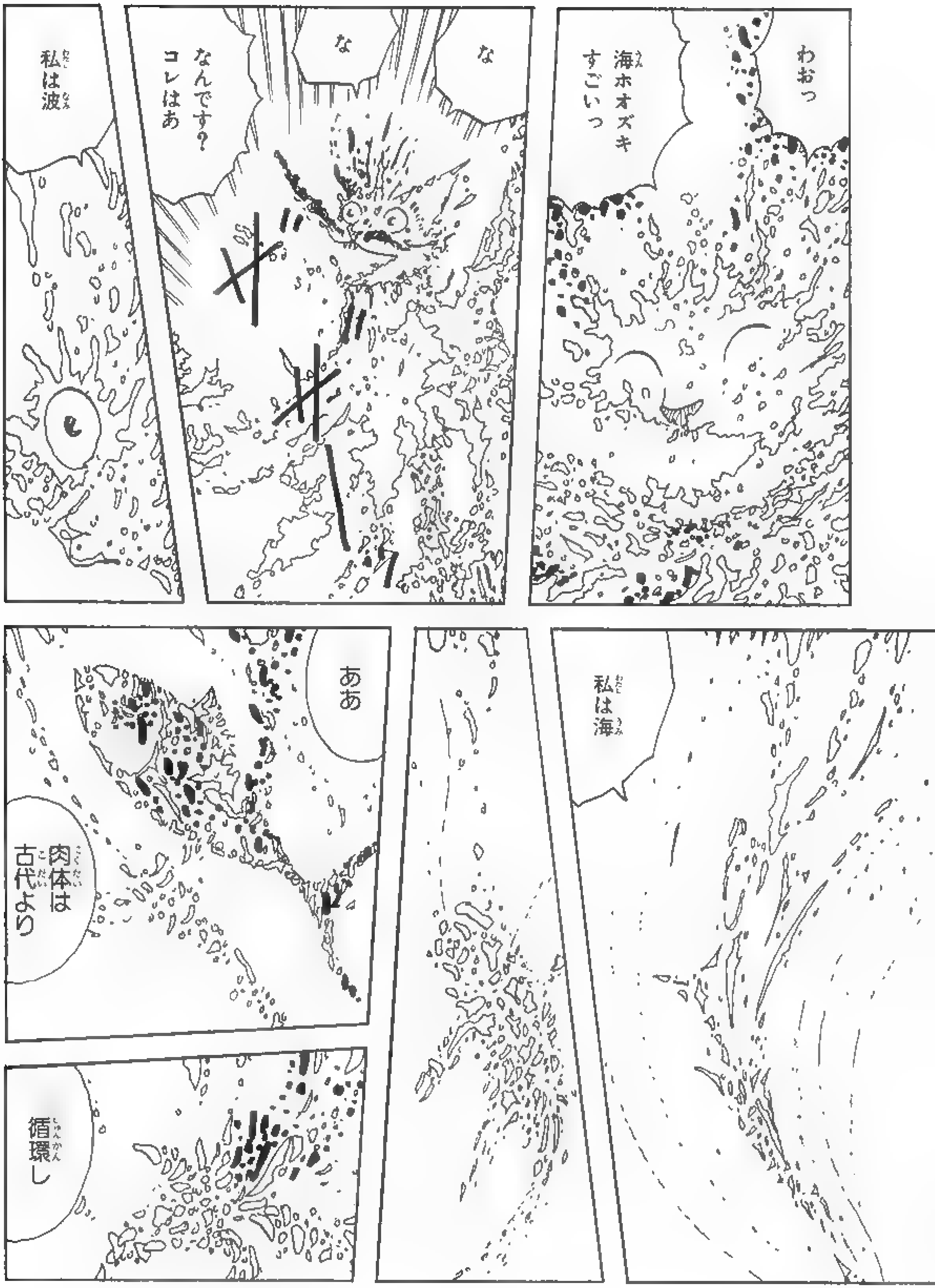

シュッ
にゃっ
ああっ 群青色の…
スミ!?
そうです
幼児期の
グンジョウ・ダコは
喜びの極みで
スミを吹くのです


この幼稚園の目的は
このスミを手に入れることなんですよ
しかしこんなに吹き上げるなんて初めてだ
よほどタコと深い関係にあるのでは？
長いこと食いまくってきたからなあ
ヒデヨシ園長タップリお礼します
叩き続けて下さい
わおう
紅マグロ
ぐったり
この島がホオズキ島と呼ばれるのは
このスミのせいという説もあります
群青色のホオズキですか


ええ これこそ 本当の海ホオズキです おためし下さい
本当の海ホオズキ?
ちゅーっ
生ぐさい味だよなあ
そう ヒデヨシ君好みですな
うう 生々しい
んまい んまい
なんだか 体が熱くなってきた


んっ
ザーッ
ザザー…
波だ
体の中から波の音がする
ザッ
ザザ…
!
ザザーッ
らあ
この世界はみんな


海の記憶でできているんだ


わおっ
海ホオズキすごいっ
な
な
なんです？コレはあ
私は波
私は海
ああ
肉体は古代より
循環し


くり返し
くり返し
熱になったり型を変えたりして
今のオレが
あるのだ
肉体は
海の記憶の
集まり…
!
オレという
意識は……
まさか…
オレの
意識も


つかの間の集まりなのか…？

第八話　効々卵（きくきくらん）




ホオズキ島
ドドン
いく〜島だねい
あっちこっちにタイコがあってさ
タイコは島民の楽しみなんです
いい腕してるねアンタ
波打ち崎でもやれるんじゃないか
波打ち崎？



あそこは危険だからなあ
危険大好き
んっ
波打ち波打ち
あらパンツ
なに調べてんのさ?
地質調査だよ
薬になる成分が大量にあるんだ
ほう……判りますか
この島は別名百薬島と呼ばれその極みが伝説の効々卵なのです
効々卵!?


ええ 万病に効くと言われ その卵を求めて 私のように この島に住みついている者も多いのです
どこか悪いのですか?
気力がないのです
働く気力が湧かないんです
ナマケ者だねえ 生きる資格ないよアンタ
おまえは言う資格ないだろう
オレはなんでも言えるのさぁ
で その卵どこにあるの?
へえ コレ


うっ
32金貨
高けーっ
これって どうやって 作ったん ですかねえ
引き出し岩に 入ってたらしいです
引き出し岩!?
コレかよーっ


どりゃっ
フーーム
空っぽだねえ
くっそーっ どいつもこいつも全部空だっ
しかし… 誰なんだろう こんな引き出し作った奴は？
島の年寄りに聞いても…誰も判らないのです
ずいぶん古そうだな
おんや


ヒューーッ
イエーッ
どうやら ここが 波打ち崎 なのねっ
あら あそこに いかにも オレの好みの
おまえあそこで やる気かよォ
オレに叩かれたくて 待っていたタイコども
いざ くらえっ
注意書きが 書いてあるぜ
「大波危険 叩くな」


ザザーーッ
わはははは
ドドド
ドド
あいつ海をなめてるな
怖いことの判らん奴め
ホウ
ホウ
ドド


ドウン
くーっ 腹に響くぞう
ズズズッ
ザーーッ
あっ
なんだ今の波
オーーイ
すごいタイコの音だと思ったらやっぱりヒデヨシ君か



ドンッ
ドドッ
あっ
タイコの拍子で波が生まれてる
面白いっ
ドドドドド
あっ


タコーーッ
ザーーーッ
凄いぞ
ヒデヨシ
さすが
タコの天敵
よーし
お次は
ドドドド
テマリの
タコ踊りーっ
コラッ


テマリ・ダコ大あばれーっ
ドンドドド
くう
むずかしいーっ
どうやったらタコ足を回せるんだっ
ウーム
ヒデヨシ君が考えこんでいますよ
あいつイタズラは真剣だからなあ
ザザー
フーム…
波って……変なノリしてんなあ



こう…来てこうか…
ドドウ
おっ めずらしい
ヒデヨシ君が波の音に合わせてますよ
実にめずらしい
あいつは周りに合わせない男だからなあ
う――っ
深くて熱いぜ
ドドッ
ドドウ
あれ
波がだんだん
静かになって来ましたよ
ドドウ
!
うわっ


ドドウウッ
ら
竜巻だ



すんげえっ
ドドン
あっ
ヒエーーッ
竜巻がタイコの拍子に合わせて動いてる
くーーっ
カッコイイ
ホーレ ホレホレ
ドドン
ドド
ああっ
ズズズ
こっちへ近づいて来るぞっ
ちょっとアンタ
なにやってんのよっ
竜巻呼んでんのさーっ



馬鹿野郎
やめるんだ
どーだ
オレのスゴさが判ったかーっ
判った
判ったから早く止めてくれっ
ほほほ
よーーし
では止めてやるぜ
らっ止まんねぞォ
なに言ってんだよおまえ
キャーッ



逃げろーーっ
ズーーッ
こらっ 無責任猫
ひえ〜〜っ
うわっ
あれっ
おっ
なんだ あれは!?
まるで 避雷針みたいに…
竜巻が


引き出し岩に巻きついてる
どうだっ これも オレの タイコの力よっ
なに言ってんのよ トンズラ猫
あれっ
岩の てっぺんが 輝いてる
あっ
あの 印は!?
トッテも 輝いてる わよっ


う
凄え
大変だっ
効々卵が
引き出し岩に
ギッシリだぞっ
翌日
薬屋さんに
みーんな売っぱらったから
大金持ち
なのよォ
しかし
あの光の印が
ザピリ名人の
ものとはなあ


ザピリ名人？
銀しぶき海の古代の彫刻師
…伝説の人物だよ
波打ち崎のタイコも彼が彫ったのだろう
しかしよォこんな卵でどうして
どんな病気でも治るんだろ？
この島の地質の中にいろんな薬効成分があることが関係してるんじゃないかなあ
ではさっそく割ってみよう
おまえ どこも悪くなんかないだろう
割ってみたいのよーーっ
んっ


あら
ちっちゃい竜巻
うへへっ気持ちいい
にゃああ
あららっ効々卵を割ったんですかっ
ええっ病気でもないのに……
でも ホラ 病気になった時の治り方が始まりますよ
治り方？
病気はみんなその方なりの治り方をするのです


キャーーーッ
気持ちい〜〜〜っ
なんだっ
これは!?
あらら
うわっ
うっ
なんだ
ありゃあ
誰かが
幼々卵を
使ったな…
でも
薬じゃ
ないぞ
ああ とんでもない
野郎だな
不治の病を
治す薬が



アタゴオルは猫の森6　おわり

ますむら・ひろし先生の最新情報はホームページ

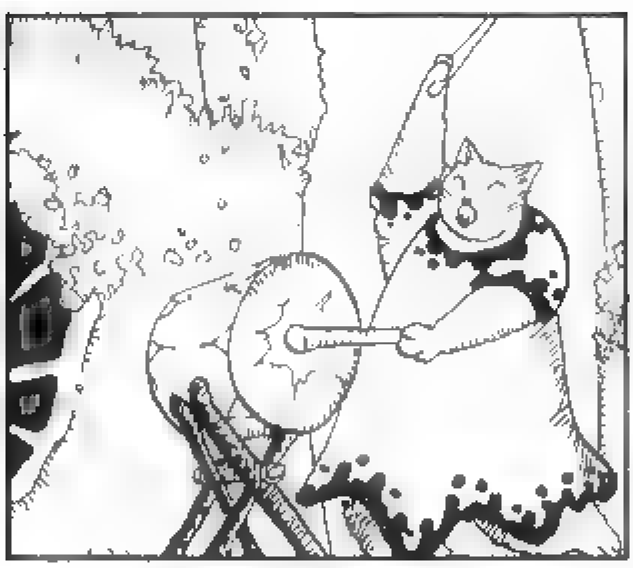
「ごろなお通信」

をご覧ください。

イベントや新刊の情報、ファンと先生の

交流の場となる掲示板など、楽しみいっぱいです。

http://homepage1.nifty.com/goronao/



アタゴオル余波6

ますむら・ひろし

アタゴオルという言葉が最初に現れるのは、月刊誌『ガロ』誌上においてだが、『ヨネザアド物語』に出てくるアタゴオルには、鉄道線路や電信柱が見え、世界観がまだ混沌のなかにあり、吹き出したばかりの溶岩台地のようにユラユラしている時代だった。そうした意味で『影切り森の銀ハープ』こそ、アタゴオルの実質的な始まりのような気がするが、描かれたのは１９７６年の秋。あれから何年たったのだろう。

27年……。もはや30年近くたつというのに、あの時代に描かれた物語を今も読んでくれる人がいるということは、本当に幸せなことだと思う。作品の始まりにあったものには、消えるべきだったり変わるべきだったりする要素もあろうが、けして変わってはならないものもあるしそうしたいろんなものを抱え込んで、僕はまだアタゴオルに居るのだ。

『象猫』。この物語を描く時期、石油の湧く土地で、ナラズモノ呼ばわりしながら他国に侵入する国家によって、戦争が始まろうとしていた。

ずっと昔から「武力こそが正義だ」という声は、この星にトグロを巻き、これから先の未来にも巻き続けてい



るのだろう。だが、やっぱり思うのだ。戦場から逃げ出すのは、勇気だと。本当の卑怯者たちは、机の上で他人に血を流させている奴なんだ。「戦場より温泉へ行こう」何百回でも叫びたい。

『THE・BAND』。戦争が始まってしまった最中に描かれていた。表紙のヒデヨシの服のなかで「NO WAR」。戦争反対のデモに行ったところで、何になるという声もまた何になると思いながら、初めデモに参加した。参加して歩きながら思ったのは、歌のなさだ。デモしながら唄う歌がない。それは、歌い手たちが、こうしたデモをやったことがないからだ。だが歌は、そんな職業歌手のなかから産まれるのではなく、デモのなかから湧き起こるのが理想なのだろう。ジョン・レノンは路上でデモったからこそ、「パワー・トゥ・ザ・ピープル」や「ギブ・ピース・ア・チャンス」が書けたんだ。

鋼舞台が音楽に満ちて、空に浮かび上がる瞬間の舞台の腹に、哀れな異空からの願いと祈りの文字が写し出されている。音楽は悲しみを癒し、絶望の壁を越え、ひとりひとりの胸に、にぎやかさの勇気を連れてくる。物語の最終ページの枠下に書かれた文字は、戦場に対しFCバルセロナの選手たちがカン・ノウ・スタジアムで示した言葉です。

『ハカイノミナモト』。笑うという行為が健康にイイというのは、昔から言われてきたことで、不治の病にかかっている人が、お笑いのビデオを見続けているうちに快方に向かったなどという話もあり、笑いは確かに素晴らしいのだ。それにしても「ヒデニラ」とは、恐ろしい名前、激臭の因子らしい名だ。さて、今回、再度読んでみて、変なところに感動したのだが、それはスミレ語録。

「堅物はツマラン。タコのようにクネクネと生きるべし」。御意でござる。



『雨音』。梅雨の季節がやってくると、陽気な傘売りがやって来る。何故に陽気なのだろうかと思うに、梅雨や雨降りは気持ちを陰気にしてしまう傾向があるからだ。町に雨が降り、雨音のカーテンでおおわれると、その音のなかで、普段考えないような気持ちになったりしてしまうことがある。叙情的というか、雨音には何かが詰まっているんだろう。そうしてみると、テンプラが見開きの場面で言う「ののしり、なげき、憎しみ。でもほとんどの言葉は、雨音にすぎない」という言葉は、合わせ鏡のようになる。無数の言葉が雨粒になって流れていくのだ。それにしても、「この言葉に会うために、生まれてきた」という、テンプラにとっての言葉とは、どんなものなのだろう。そしてまた、自分にとっての、そのような言葉とは、何なんだろう。

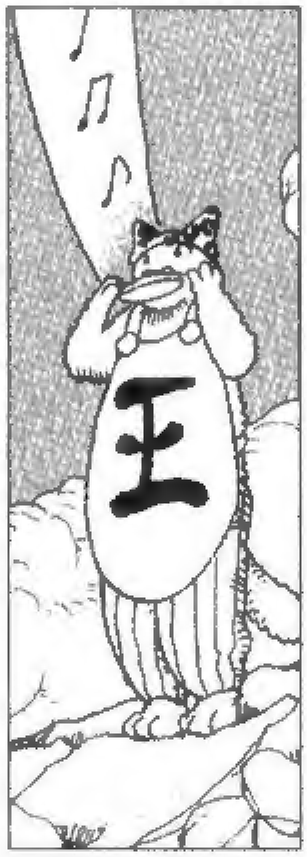


『通底火口』。オホーツク海あたりに居るアゴヒゲアザラシが、東京湾に迷い込み、多摩川をウロウロしていたのでタマちゃんと呼ばれるようになった。このタマちゃんが我が家の近くを流れる江戸川のそのまた隣の川に出没したつーので、家族で見に行こうと提案したら、「ひとりで行けばあ」と誰も乗ってこない。「しゃあないな」とひとりで車走らせて行ってみると、野次馬が次々ときて、タマちゃんが乗ったというボートを見ている。集まってきている奴のなかには相当変な奴がいて、アザラシが友を呼んだ風な妙な雰囲気を流している者などなかなか面白かったので、記念にスミレ博士も蛇腹沼にてポーズをとってみた。さて、物語には火山草が出てくる。火山大好きな僕にとっては、夢のような植物だが、花屋なんかに売ってたら是非買いたいものだ。この火山草の親分みたいな巨大な奴の山頂から



今年も現れた毘茶。君がくれるのは、永遠に想い出の溶けないかき氷なんだ。

「ツキ刺サレ」。毘茶のモデルになっている岡田光夫は、ハーモニカを沢山持っていて、渋い音色をたてていたが、彼はかつて野田の町のなかにあった溜まり場、通称カンパ小屋まで毎晩自転車で通ってきた。野田の暗い夜道を十キロくらい帰っていく時、自転車こぎながらハーモニカ吹いていた。両手はもちろんハンドルを持っている。そしてディランみたいにハーモニカホールダーを首にさげて吹くのだが相当怪しい姿だった。彼も確かにタマちゃんの友だちの城だったのです。さて、空から降ってくるオーロラ製の釣り針。胸に刺さって夏の青空に浮かぶとき、僕のなかのウンザリの海が、一瞬にして干上がり、つかの間の爽快感が広がってくる。



「ホオズキ」。前の回の表紙絵は、大タコおぶっているヒデヨシの図。この絵を描いた時に、ヒデヨシがタコをあやすような話を次に描くべえかと思い、島に舞台を移し、タコの幼稚園となった。だがこのまま幼稚園のタコとヒデヨシに焦点を合わせていくと、最後に園児がどこにも居なくなるような、恐ろしい風景が起こりそうでならない。そんななかで、物語はヒデヨシ城ではなく、テンプラ城に突入して、世界が物質分解を起こすなかで、意識のことになった。肉体を動かしている意識が、その肉体が失われたあと、どうなるのか。僕には判らないことだが、心のなかでは、意識は不滅でありなんらかの形で残り続けてほしいと思う。だが今回の話では、意識もまた、集合体であって、永遠の個ではない、という、どこか残念な気持ちのものを描いてみた。



『効々卵』。不思議な表紙だ。ヒデヨシが松葉杖をついている。なんで不思議なんだろう。どうみてもこの猫、足を骨折しようが、平気で歩いているような気がしてならないのだが、現実は甘くはなかった。2003年の8月末、僕は誘われて八丈島に行った。昔、朝日ソノラマ時代に、一冊目の分厚い単行本『アタゴオルは猫の森』が売れたので、その褒美にと、島で次のネタを考えようなどとなり、この島に行ったのだったが、あれから26年、記憶のなかの地味な島は多少にぎやかになっていた。さてここで、横浜のサッカー愛好会と島の愛好会の試合があったのだが、わざわざ来て見学つーのも哀れだつうので、僕もやることになった。サッカーの試合は山のように見ているので、ポジショニングや動きとか頭のなかで判るのだが、当然のごとく技術がない。それでもオトリになってヒイヒイ走り、チームも勝ってその晩の宴会。その夜更けに酔っぱらった者たちの昼の試合への激論を聞いているうち、「おお、なんて真剣な、ようし、明日は全力疾走で、前半だけで燃え切るぞ」と決意したのが、地獄の釜に入るはめとなった。翌日の試合、開始早々、僕はボールを本気で追い、かわされた瞬間、2、3歩かかって止まる勢いなのに一気に左足を踏ん張って、無理矢理止まろうとした。その瞬間グキッと膝が鳴り、足を逆に折る状態になって、カッと痛みが走って立てなくなった。即離脱。氷で冷やしたが試合後歩けなくなって島の病院に行き、グルグル巻き。結局自爆による骨折だったのだ。松葉杖をつきながら、それでも岸壁で釣りをして、潜って泳ぎ、酒を飲み過ごした数日間。島の人たちの明らかに本州都市部の人間とは違う人間くささはジンとするものだった。スイカを割って、そこに氷と島の焼酎を注いで、飲んだ夏。八丈太鼓の響き、始終雲と交歓する八丈富士。そしてサッカーをめぐる人間たち。帰りの飛行機は、車イスで羽田ではタラップから降りられないため、特別移動用トラックまで動員していただき、クレーン室に入っての帰還となったが、これらはみいんな芸の肥やしでございます。このような濃い体験をさせてくれた八丈島の岩盤と、森手配師に、青ヶ島より遠方の雲の形になって、感謝の風を送ります。

予想もしなかった体験こそが、次の宝への通路になる。そしてそうした道へ行くきっかけは、他人が持っているのだ。だから生きることの旅は、楽しく、道連れなのだ。

(初出) コミックフラッパー 2003年4月号～2003年11月号

MFコミックス
アタゴオルは猫の森……………6

2003年11月30日 初版第1刷発行

著者……………ますむら・ひろし

発行人……………松岡博治

発行所……………株式会社メディアファクトリー
〒104-0061 東京都中央区銀座8-4-17
TEL 0570-002-001 03-5469-4760(編集)

印刷・製本…………大日本印刷株式会社

ISBN4-8401-0912-5 C9979